

# 「知識創造型図書館改革」検証にかかわって有識者の方々からの主な指摘、意見

(平成 24 年 2 月)

## ○指摘、意見をいただいた有識者の方々

塩見 昇 (日本図書館協会理事長、大阪市公文書管理委員会委員長)  
原田隆史 (同志社大学社会学部准教授、国立国会図書館非常勤調査員)  
村木美紀 (同志社女子大学専任講師、前大阪府立図書館協議会委員)  
北村慶和 (公認会計士、大阪市立図書館業務委託事業者選定会議委員)  
宮田満憂美 (大阪市生涯学習推進員協議会運営委員長、鶴見区区政会議委員)  
徳谷章子 (NPO 法人ハートフレンド代表理事、One Book One Osaka 事業運営委員会委員)  
渡邊裕美子 (東淀川区おはなしとことこ代表、文部科学省読書コミュニティ拠点形成支援推進会議委員)

## ○有識者からの主な指摘、意見

### (1) 効率的な運営体制の確立について(民間委託の拡大など)

- ・【人件費と業務委託経費の相関関係】定型業務の民間委託など効率的な運営体制を構築しコストを抑制し、新たな財源を必要とすることなく市民サービスの拡充を実現するという目標で、本務職員数の削減と民間委託の拡大については成果が出ているが、人件費と業務委託経費の相関関係、それら経費の推移を図示するとわかりやすくなるのではないかと。

### (2) 知識を創造する図書館へ(アクセス機会均等、レファレンスの高度化など)

- ・【指標の設定】この項目以外についても言えるが、図書館が提供すべきサービス・機能については、開館時間延長などコスト対効果で捉えていくのがふさわしいサービスと、次世代につながるサービスや学校、ビジネス支援などコスト対効果だけで考えては不十分なサービスの両方が混在しているため、その辺を明確にした指標の設定も考えるべきではないかと。また、数値目標を立てて実現させることに加えて、コスト対効果の側面など、単純に増やすという目標に、プラスアルファの要素を考えてもらいたい。
- ・【広報】自動車文庫のステーション増など非常によく取り組みを実施しているが、市民に浸透していない。図書館サービス全般について、広報・PR力が弱いと感じる。市民も加わる「広報」、それ自体を一つの柱として捉え、その活動をチェック対象としてはどうか。
- ・【データベース、レファレンス】データベースの充実、レファレンスサービスの充実のその先のこととして、多くの役に立った事例を示すことが重要である。また、商用データベース提供サービスのさらなる周知と利用促進を目的として実施した「データベース検定」についても、インパクトのあるアピールなど工夫が必要ではないかと。

### (3) 人と心を育てる図書館へ(子どもの読書活動の推進、市民ボランティアとの協働など)

- ・【ボランティア】ボランティア養成、活動支援の一層の充実に期待したいが、民間の力、市民からの応援団をより柔軟な発想で活用すべきとも考える。
- ・【ヤングサービス】ヤングサービスなど、今回設定されなかった中高校生以上を対象としたサービス展開が今求められているため、次期には指標を設定して取り組まれないかと。
- ・【学校連携】学校図書館への支援など他都市になく進んでいると思うが、学校の教員の意識の中では図書館との連携の有用性についてまだまだ浸透していないため、より一層学校との連携を強化してもらいたい。

### (4) 全体をとおして

- ・事業の目標設定に対する成果は、概ね図書館の自己評価が妥当と判断できる。
- ・新規の来館者数を増やす取り組みと来館頻度を高める取り組みが必要であり、新たな非来館者サービスなど次期につなげることや、第2段階の指標について書き込みしてほしい。